



持続可能な社会めざし
「ゆめプラン」を加速



大河原町長
伊勢 敏

新年おめでとうございます。町民の皆さまには、お健やかに新年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

激動するこんにち、将来を見通し、いま何を優先して未来に備えるかが問われています。現代日本において、危機的な状況にある少子高齢化は優先される重要課題だと考えます。

その危機感から、昨年5月に発表された「消滅可能性都市」という考えが脚光を浴び、急激な少子化に対する警鐘として注目されています。

これを受け、「消滅」を防ぎ、消滅に配置される「持続」をキーワードとして施策に取り組むことが今後ますます重要になるものと考えています。そこで、本町はことし、第一に、さ

らなる少子化対策を重視し、「人口を持続可能にする政策」の確立に向けた検討プロジェクトチームを設置することとしています。

人口を持続可能にするためには、勤労世代、特に出産年齢層にとつて住みやすい町、例えば、子育てがしやすく、仕事と家庭の両立を可能にし、教育環境を充実するなど多くの魅力ある政策の確立をめざします。

第二に、少子化と同様、高齢化対策を重視する考えから、昨年10月に開園した「おおがわら町民学園」のさらなる充実に加え、健康増進を主な目的とする「歩きたくなる町」の創造に向けた検討プロジェクトチームを設置することとしています。

歩きたくなる町を創造するためには、例えば、安全な通り道や市街地に魅力あるスポットの設置、町内の景観改善などをめざします。

さらに、目下、検討の最終段階を迎えている「高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画（平成27～29年度）」には、介護特別養護老人ホームの設置などを盛り込み、高齢者福祉の充実、豊かな高齢社会の創造をめざします。

一方、「持続可能な社会」という考えは、国連が1987年に発表した「環境と開発に関する世界委員会」の報告書が、地球温暖化など環境問題につい

て世界に向けて発したメッセージであります。温暖化は、石油など化石燃料の使用量の急激な増大が原因です。化石燃料使用量削減のため、太陽光や風力、水力、地熱、バイオマスを利用する「再生可能エネルギー」が注目されています。

本町としても、「Next大河原ゆめプラン（平成26～30年度）」の重点プロジェクトである「環境先進都市」の前進を図るため、昨年に引き続き、再生可能エネルギーの導入に取り組んでまいります。

このほか、同じく重点プロジェクトである「長寿健康社会」実現の施策としては仙南夜間初期急患センター（3月開院予定）、「災害に強いまち」として地域防災計画策定（3月頃に防災マップ配布予定）、「攻めの産業振興」として企業誘致、「学び社会」として金ヶ瀬小中一貫校検討、「たゆまざる行財政改革」として行財政改革大綱の策定など、様々な施策に全力で取り組んでまいります。

ゆめプランの実現を加速し、「希望と誇りを持って暮らせる福祉の町おおがわら」の建設に決意を新たに致しますとともに、町民の皆さまのご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

町長・町議会議員



新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで健やかな新年を迎えられたことと存じ、心からお慶びを申し上げます。また大河原町議会に對しまして常日頃は多大なご理解とご協力を賜り衷心より厚くお礼を申し上げます

さて、昨年暮れの第47回衆議院議員総選挙では、自民・公明の両党が326議席を獲得し安定多数を確保いたしました。政権与党として国と地方が抱える諸問題を国民の視野に立った政権運営で良い方向に導かれることを期待するところでもあります。

昨年は、広島市で近年の傾向にみられる集中豪雨による土砂災害が発生し74人も尊い人命が奪われ、秋には御嶽山の噴火で登山客に多数の犠牲者が



大河原町議会議員
秋山 昇

激動の時代、議会改革を進め
変化に対応できる体制づくり

出るなど、大きな災害が発生しました。御嶽山では行方不明者の捜索が春まで中断せざるを得ない状況で胸が痛みます。町議会も将来の自然災害への対応について、これまで以上に真剣に取り組んでいかなければと考えるところでもあります。

TPP交渉もまだ妥結をみておりませんが、加入を前提とした農政改革として、昨年度からコメの所得補償交付金の減額、米価下落を補填する交付金の廃止等により農地荒廃などが一層懸念されるところであります。

わが町の一年を振り返りますと、町立病院跡地の有効利用として、5月1日に世代交流いきいきプラザがオープンいたしました。町民が世代を超えて交流できるスペースとして、子育て支援のための活用、そしていざという時の避難所としての備えを持った施設です。ぜひご利用願います。

また、主要観光としての「桜まつり」は、昨年は天候にも恵まれ、観光客は26万人を数えました。全国でも有数の桜の名所としての評価を得ています。「さくら」による町興しのこれまで以上の発展に大いに期待をするところであり

ます。一方、町議会としても様々な活動を行ってまいりました。開かれた議会へ

の取り組みについては、通年議会の試行や情報公開の充実が評価され、昨年の133位から、昨年は32位（議会改革度／早稲田大学マニユフェスト研究所発表）へと躍進を遂げました。また、第33回宮城県町村議会広報選考会において、「大河原町議会だより」が議会初となる奨励賞を受賞しました。今後とも分り易く、より身近なものとなるよう議会内容をお伝えしてゆくとともに、さらなる議会改革を進めてまいる所存でございます。

このほか、議員研修を通して資質の向上を図りつつ、議会報告会を町内6か所において行い、貴重なご意見、ご要望を賜りました。また、議会に對して多くのかたに興味関心を持っていただくため、区長会や退職校長会などを始め、町内小学校の6年生児童、障がい者のかたへの議会傍聴のご案内をいたしました。議事堂は初めてというかたも多く、これを機に少しでも議会に親しみを持つていただきたいと思います。

結びに、本年一年、事故、災害が少なく、争いが静まり平穏な日々でありますよう、そして町民お一人お一人が「萬事羊九成（ばんじよくなる）」年でありますように心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。